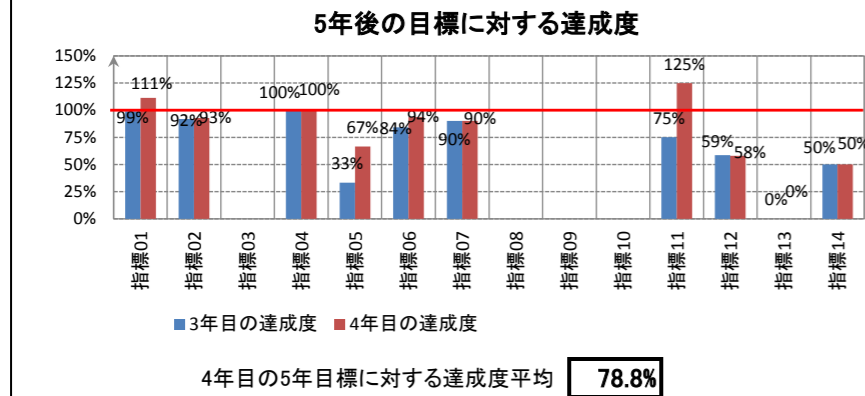
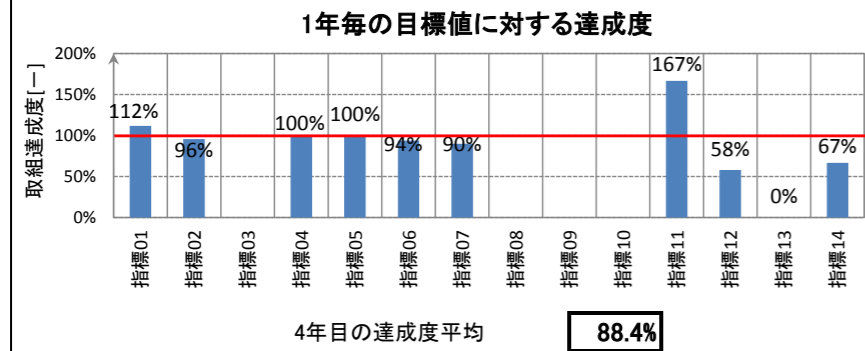


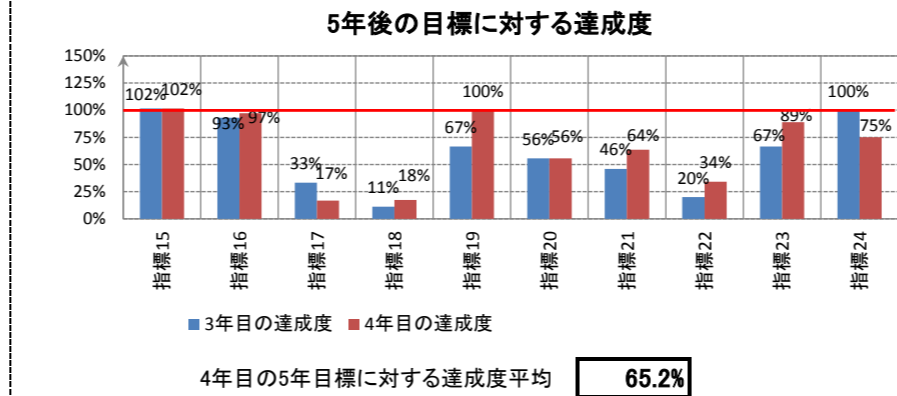
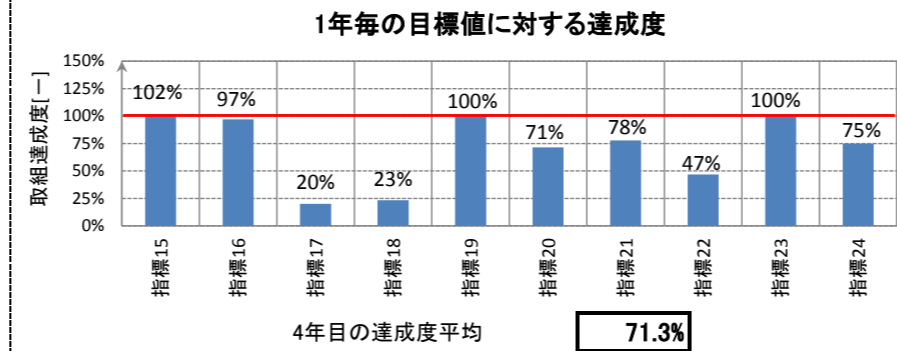
富山県富山市	人口：418,179人、172,744世帯（平成28年3月末現在） 就業人口：208,790人（平成22年10月1日現在） 市内GDP：1.86兆円（平成25年度） 面積：1,241.77km ² （うち森林面積863.49km ² ）
---------------	---

取組進捗評価結果（都市による自主評価に基づく達成度）

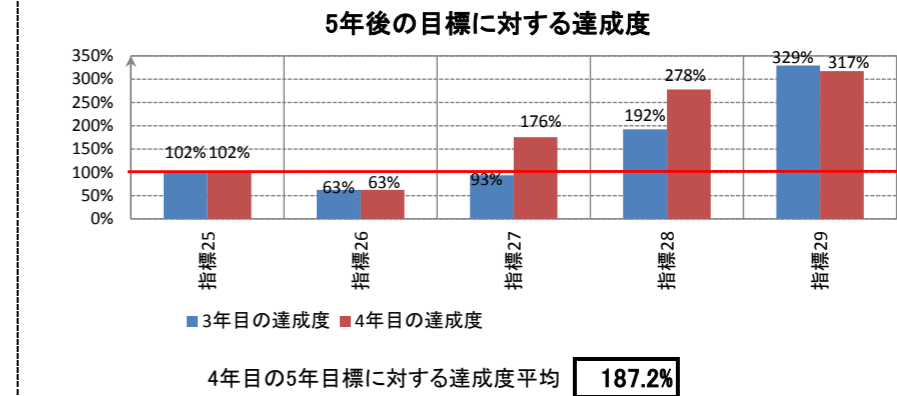
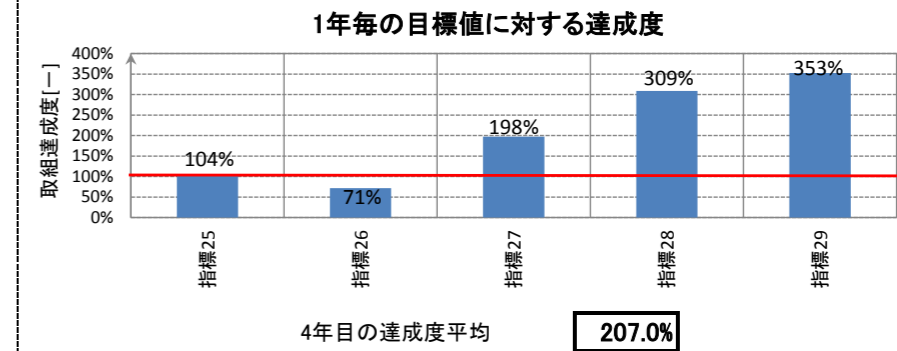
Q1. 環境的価値



Q2. 社会的価値



Q3. 経済的価値



指標番号	指標名
指標01	公共交通利用者数
指標02	便利な公共交通の徒歩圏に住む居住人口の割合
指標03	運輸部門からのCO2排出量
指標04	路面電車南北接続（第1期）工事に係る進捗率
指標05	路面電車南北接続（第2期）工事に係る進捗率
指標06	上滝線沿線のP&Rに利用されている無料駐車場の1日平均駐車台数
指標07	イメージリーダ路線へのノンステップバス車両の導入支援数
指標08	家庭部門からのCO2排出量
指標09	セーフ&環境スマートモデル街区の整備件数
指標10	再生可能エネルギーの導入量
指標11	推進研究の累計実施件数
指標12	食品廃棄物由来のバイオガス供給量
指標13	モデル地区で小水力発電機を設置した箇所数の累計
指標14	農家等との再生可能エネルギーについての勉強会等の実施回数の累計
指標15	健康な高齢者の割合
指標16	介護保険在宅サービスを利用する高齢者の割合
指標17	歩行補助ステーション数（箇所）
指標18	ケーブルテレビ富山が整備するwi-fiのアクセスポイント数
指標19	ユニバーサルデザイン対応の停留場の累計整備件数
指標20	私有地におけるコミュニティガーデンの整備数
指標21	街区公園におけるコミュニティガーデンの整備数
指標22	インDEPENDENSボードウォーク整備延長
指標23	障がい者乗馬会の実施
指標24	子供を対象とした環境教育ツアー【冒険体験（体験学習）】の開催
指標25	製薬関連企業の出荷額
指標26	6次産業化法・総合化事業計画認定者数
指標27	6次産業化法に取り組む農産物（エゴマ）の露地栽培面積
指標28	林地集約化面積
指標29	森林由来バイオマスの再生可能エネルギー利用量

Q4. 特記したい事項（国際展開・都市間連携等）

《国際展開》
 ・平成26年から実施しているインドネシア国バリ島のタバナン県での「再生可能エネルギーを活用した農業活性化」プロジェクトにおいては、平成27年度にJICAのODA案件化調査事業の採択を受け、プロジェクトチームの民間事業者とともに現地調査に入り、事業化に向けた取組を本格化させたところである。
 ・平成27年10月には、第5回「環境未来都市」構想推進国際フォーラムが開催されるとともに、上記フォーラムの翌日には、国連SEforALL、外務省並びに（一財）省エネルギーセンターとの共催で、国内初となる「SE4Allフォーラム」を開催し、本市の環境未来都市としての取組を国内外に発信するとともに、海外都市とのネットワークの構築が図られた。
 ・イタリア国ミラノ市で開催されたミラノ万博の関連イベントで本市の環境未来都市の取組をPRし、現地の研究機関等と日伊の共同研究に関するパートナーシップ協定を締結した。

《都市間連携（国内）》
 ・「6次産業化（農工商連携）による環境と健康をテーマとした多様なビジネスの推進」プロジェクトにおいて取り組む「エゴマの6次産業化」に関し、近年の健康志向の高まりや様々なメディアがその効能などを取り上げられた結果、エゴマの原材料不足が生じている。その課題解決のため、エゴマの一大産地である福島県との連携について検討している。

平成27年度の取組総括

各指標の達成度については、11項目において単年度目標を達成している。このほか、8項目が70%以上の達成度を有しており、実績値の把握が3年遅れるCO2排出量関連の指標を除けば、目標と乖離している項目は5項目のみとなっている。
 5年目の目標値に対する現在の進捗状況においては、9項目の指標において既に5年目の目標値を達成している。また、90%程度の達成度を有している項目が5項目あることから、プロジェクト毎で多少差があるものの、概ね順調に進捗している。
 ただし、「経済的価値」に関する指標に比べ、「環境的価値」及び「社会的価値」に関する指標については、これまでの取組の成果が一部の指標に表れていないため、取組内容を見直すなどの対策を講じる必要がある。
 他方、「セーフ&環境スマートモデル街区の整備」プロジェクトにおいては、候補地の決定、公募の開始、事業者（優先交渉権者）の選定など、一足飛びに進捗が図られた。さらに、平成26年度のタバナン県との協定締結を契機に始まった「再生可能エネルギーを活用した農業活性化」プロジェクトの国際展開については、JICA[案件化調査事業]の採択を受け、本格的な調査が開始されたところである。
 また、ミラノ万博の日本館認定イベント「ピースキッチン」において「環境未来都市とやまシンポジウム」を開催したことや、エゴマ油とオリーブ油とのベストミックスを探る共同研究の実施に関し、イタリア食科学大学とのパートナーシップ協定を締結するなど、「環境未来都市」構想が目指す「成功事例の国際展開」に向けて、本市のプロジェクトが大きく花開いた一年であった。

委員からの取組全体に関する評価

○多くの取組みで成果が挙がり、順調に進捗している点を評価する。
 ○国際展開において、積極的に申し分ない水準で推進し、優れた成果を残している点を評価する。
 ○一方で、ロックフェラー財団、国連、OECD等も参加したレジリエントシティサミットが富山市で開催されたことは素晴らしい成果であるが、全市の動き（広報、市民・市内企業の関与等）がやや不足していたと感じ、様々な活動が行政の所管によりやや細分化しているのではないかと懸念する。
 ○コンセプトであるLRTを活用したコンパクトシティについて、その特徴がより現れる成果指標を設けた方がよい。また、中心地以外の郊外部の状況も重要。コンパクトシティにおいて、コンパクトな部分だけでなく、その郊外部の取組も一緒に発信いただくとメッセージ性がより強まる。
 ○セーフ&環境スマートモデル街区は大変素晴らしい取組であり、LRTと共に富山の代表事業となることを期待する。